

令和3年度予算編成にあたって

富田林市長 吉村 善美

令和2年は、私たちにとって忘れられない試練の年となりました。新型コロナウイルス感染症（以下、「感染症」と言う。）の蔓延により、本市においても予定されていた市制施行70周年事業を始めとする様々な取組みが中止や縮小を余儀なくされ、また働き方や生活様式に非常に大きな変化が起きるなど、市民生活や地域経済も大きな影響を受けています。

しかしながら、上水道は市民生活を守る大切なライフラインであり、私たちは事業を継続していかねばなりません。むしろ、困難な、厳しい状況にあるからこそ、私たちは一丸となって、これまで通りに責任を果たしていかねばならないものと考えます。

高度経済成長期に整備された管路の急速な老朽化に対応するため、本市水道事業は近年、積極的に管路の更新工事を進めてきました。一方、人口の減少等により給水収益の減少も続いているため、事業計画と資金需要をふまえた将来見通しを立てることの重要性が認識されることとなり、本市水道事業においても「富田林市水道事業経営戦略」を令和元年度に策定したところです。経営戦略は予算編成を考えるとときに基本となる柱ですから、予算はこれをふまえた効率的なものとしてください。

感染症の終息が見通せない中、ウイズコロナ・ポストコロナを見据えた取組みとあわせ、引き続きこれまで通りの事業継続が必要となります。限られた財源をフルに活用し、水道事業職員一人ひとりが真剣に考え、「他思力」「他喜力」を存分に発揮して予算編成に臨んでください。

令和元年度は赤字決算となり、次年度への繰越利益剰余金は0円になりました。甲田浄水場の浄水設備廃止と、それによる固定資産除却費の計上は、計画に基づき予定していたことですが、事業が大きな転換期に来ていることを示す象徴的な決算となりました。

(財政状況と見通し)

財政は厳しい状況にあります。前述のとおり、人口の減少と、一人当たりの使用水量があわせて減少を続けているため、財源の根幹である給水収益も、近年は減少を続けています。

一方、費用（収益的支出）についても、近年では、管路の更新を積極的に進めてきたことによる減価償却費の増加など、増加要因が複数あります。

しかしながら、老朽化が進む管路の更新は道半ばであり、資本的支出への多額の資金需要は今後も継続していきます。また、令和3年度は、感染症の影響を確実に見通すことが困難な状況での予算編成となりますから、財源減少の可能性も考慮した、柔軟な予算編成が必要です。

「市民とともにつくる、市民が幸せになる、市民本位の市政」を、水道事業においても基本精神として進めていくことを肝に銘じ、取り組んでいきましょう。

(予算の基本方針)

水道事業では、令和3年度の予算編成にあたって中心とする6つの柱の一つである、「市民の安心・安全・いのちを守るまちづくりの推進」を中心とした予算編成を行うものとします。これに、SDGsの視点も加え、部局間の連携も図りながら、全体的な視点で予算編成にあたるようにしてください。

事業費はこれまで通り、富田林市地域防災計画で重要施設と位置付けられている施設等への配水ルートや浄水場、配水池、主要な管路等の基幹施設から優先的に更新・耐震化を進めるものとします。

編成にあたっては、重要度、優先度を考慮した無駄のないものとされるよう、十分に心がけてください。

以上、令和3年度予算編成の基本方針とします。